

# [平成29年度第4回]佐渡市地域自立支援協議会 ひきこもり支援部会報告

開催日時	平成29年度第1回:平成30年1月25日(木)
出席者	NPO法人エコひびき佐渡、アフタースクール、KHJにいがた「秋桜の会」佐渡支部、佐渡保健所、佐渡市教育委員会、相川支所福祉保健係、市民福祉部社会福祉課障がい福祉係、市民福祉部子ども若者課子ども若者相談センター
課題	<ol style="list-style-type: none"><li>1 ひきこもり支援機関の情報共有及びネットワークの構築について</li><li>2 ひきこもりに関する支援体制等について</li><li>3 ひきこもりの当事者向け支援プログラムについて</li></ol>
主な協議事項	<ol style="list-style-type: none"><li>1 ひきこもりに関する相談先の周知について</li><li>2 ひきこもりに関する実態調査について</li><li>3 高等学校との連携について</li></ol>
今後の取組	<ol style="list-style-type: none"><li>1 ひきこもりに関する相談先を周知するためのリーフレットを作成</li><li>2 ひきこもりの段階に応じた支援方法等のフローチャートを作成</li><li>3 ひきこもりに関する実態調査の実施について検討</li><li>4 高等学校との連携強化に向けた取組について検討</li></ol>

## 1 これまでの主な取組等

### 【平成25年度】

- 「ひきこもり」の状況について情報共有・確認等
- 「ひきこもりに関する支援団体・機関等」の取りまとめ
- 「課題」「支援体制」「居場所」「相談機関」「学校等との連携」について検討

### 【平成26年度】

- 家族会(KHJにいがた「秋桜の会」佐渡支部)設立の取組
- 研修会「ひきこもりとその家族のためのフォーラム」の開催
- 地域活動支援センター「アントレプレナー」の開設

### 【平成27年度】

- 「ひきこもり」に関する実態調査について検討
- 居場所(アントレプレナー等)づくりについて
- 高等学校等関係機関との連携について検討
- ケース検討

### 【平成28年度】

- 各関係機関の現状及び課題の整理
- ケース検討



○実態把握等困難であるが、各関係機関で対応し、成果もある。  
○個別支援を丁寧に一つ一つ積み上げていくこととした。

## 2 関係機関の課題・現状等

(1) 行政等	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 高校中退者や通信制高校卒業者の状況把握ができていない。</li><li>■ 家族・関係者等から連絡があっても、本人に面会することが困難な状況は変わらない。</li><li>■ 約束せずに訪問することにより面会できる場合がある。本人の状態は確認できるが、その後の訪問が継続できるかどうかはケースによる。</li></ul>
(2) 学校等	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 不登校は、増加傾向にある。(今年度は、中学生よりも小学生が増加している。)</li><li>■ 義務教育でできることは、不登校の未然防止と早期対応である。</li><li>■ 親が子どもを学校に行かせないというケースがある。親がカウンセリングを受けることで、改善するケースが増えている。親の対応が変わると、子どもも変わるが、親に対する指導が難しい。</li></ul>
(3) 民間団体等	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 通信制高校を卒業した後、就職できなかつたり、その後つながれなかった人がいる。</li><li>■ 親との接点を持ち、親の理解を得ることが必要である。</li><li>■ 5年、10年とひきこもった年数の倍の年数がかかると思って、関わり続けていかなければならない。</li></ul>

## 3 各関係機関の現状からの課題等

- 支援機関等へ相談に来ることができるようにするにはどうすべきか。
- 相談者とどのように会うか、また、関係を長く保つにはどうすべきか。
- 高等学校等を卒業(中退)した後、どのように関わることができるか。

“諦めないで関わりを継続する”ことが重要である。

# [平成29年度第4回]佐渡市地域自立支援協議会 ひきこもり支援部会報告

## 4 今後の取組

相談先の周知	◆どのタイミングで、どこで目に留まるかわからず、必要とするタイミングは一人一人異なると考えられるため、必要とした時に連絡してみようと思えるような持ち運びしやすくコンパクトなリーフレットを作成する。 ◆QRコードの掲載についても検討する。
段階に応じた支援	◆ひきこもりの段階、親の受容過程・各期で感じやすい焦りと対応方法のフローチャートを作成する。 ◆段階ごとの支援者をまとめ、リーフレットを作成する。
ひきこもりの実態調査	◆内閣府が平成30年度に40～59歳の中高年を対象とした実態調査の実施を決定。 ◆市独自の調査について、再度実施するかどうか検討する。
高等学校との連携強化	◆高等学校の中退者に対する支援ができるような仕組づくり。
部会の開催	◆年度当初(5月頃)に第1回を開催し、年度目標を立てる。 ◆年に2～3回開催する。

## 5 課題について

### ■ひきこもりの段階に応じた支援方法の検討

例えば、①家庭内で孤立している段階 ②家庭内では安心して生活できる段階 ③家庭から一歩外へ出てみようと思える段階 など